

分科会 15

当事者の子育てを支えるための家族丸ごと支援

出演者： 横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）
蔭山正子（大阪大学大学院公衆衛生看護学）
前田 直（杏林大学保健学部作業療法学科、精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会代表）
崎千 晶（子育てをされている当事者）
齊藤秀子（子育てをされている当事者、地域活動支援センターひふみ）
吉川 進（子育てをされている当事者、横浜北部ピアの会ハピカ）
桜野はな子（精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会）
小林鮎奈、田村大幸（こどもぴあ：精神疾患の親をもつ子どもの会）

精神障がい者の結婚、子育ては当たり前の時代となりつつあります。しかし、子育てをする当事者、配偶者、子どもの実態は知られていません。この分科会では、地域のサポートを受けながら、子育てをしている当事者、配偶者、子どもの立場の家族に、それぞれの体験とピアサポートについて語って頂きました。その上で、当事者にとっての結婚、子育ての意味を考え、家族丸ごと支援のあり方を探りました。

●発表の内容

蔭山氏は「当事者の結婚と子育て支援」というテーマで、当事者の抱える課題や悩みとともに、恋愛、結婚、育児が当事者のリカバリーにとって重要な要素であると述べました。そのためには、当事者の「人を愛すること」を応援すること、恋愛、結婚、育児について語る場、学ぶ場を作ることが、これから支援に必要であるとのことでした。

前田氏は「配偶者・パートナーの困難とピアサポートの実際」というテーマで、配偶者の生活実態が社会に知られていない課題を述べました。今後、配偶者会を全国に広げていく予定であり、そのために、配偶者版「家族による家族学習会」を開催予定であると報告しました。

横山は、「子どもの困難とピアサポートの可能性」というテーマで、子どもたちの生活実態、大人になっても抱える生きづらさを述べました。また、「こどもあぴあ」によるピアサポートとして、集い、子ども版「家族による家族学習会」の開催、配偶者会と連携した未成年の子ども支援などを報告しました。

子育てをされている当事者の方3名が子育ての体験を語り、「子育ては大変だが、幸せであり、自分も成長する」と話しました。子育てには孤立しないように、地域とのつながりが大切であること、ピアサポートを含めた、子育て支援の重要性を伝えていました。

配偶者の立場の桜野さんは、地域のサービスがなかなか受けにくいことなど、配偶者としての困難の現状を話し、行政を含めた地域の積極的な支援を希望していました。配偶者会に繋がり救われたこと、今後も活動していきたいと話しました。

子どもの立場の小林さんは、親の発病による困難や辛さとともに、同じ立場の家族に出会って救われたこと、親の病気があったことは不幸ではなく、孤立した状況が困難であったことを話しました。また、自身が精神科

看護師となって、家族が抱え込まない重要性を伝えていました。

会場には、当事者会の方々、それぞれの立場の家族会の方々、支援者、教育関係者、学生など、様々な立場の方が参加していただき、60名以上の参加者でした。

1. 当事者の結婚と子育て支援（蔭山正子）
2. 配偶者・パートナーの困難とピアサポートの実際（前田直）
3. 子どもの困難とピアサポートの可能性（横山恵子）
4. 子育てをする当事者の体験談（崎千晶、齊藤 秀子、吉川進）
5. 配偶者の体験談（桜野はな子）
6. 精神障がいを持つ親に育てられた子どもの体験談（小林鮎奈）

●グループワーク・まとめ

後半は、当事者、配偶者、子どもの立場の家族、それぞれ交流ができるようにグループを作りました。

また、配偶者、子どもの立場以外の家族、支援者は関心のあるグループに入って話を聞きました。

最後に、グループごとに感想が話されました。

同じ立場同士で話せて嬉しかった、もっと話す時間が欲しかった、子育てに関する様々な立場の話を聞く機会となって良かった、等の感想がありました。

また、支援者からは、体験が心に響き、家族の状況や困難を知ることができた、家族を丸ごと支援する必要性を学んだ、等の感想がありました。

≪横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）≫